

山菜のイタドリ（虎杖）に 咲く白い花とその後につく実

伝統的な恵みから、驚異的な生命力まで。
日本の原風景を彩る多面的な植物図鑑。



基本情報と分類

(Botanical Profile)



学名： *Fallopia japonica* (英名：Japanese knotweed)

分類： タデ科 (Polygonaceae) / 多年草 (Perennial) /
雌雄異株 (Dioecious)

分布： 中国、朝鮮半島、台湾、日本の北海道から奄美諸島
まで広く分布。

Morphology Section

草丈： 30～150cm (地下茎で越冬)

葉： 互生、広めの卵形 (長さ6～15cm、幅7～15cm)

名前の由来と多彩な呼び名

(Etymology & Local Names)



「イタドリ」の語源。若芽を揉んで傷口につけると痛みがとれることから、「痛（イタ）みを取る（トル）」が転じたとされる。



漢字表記「虎杖」。生の茎に虎を連想させる縞模様があり、成長して乾燥した古い茎は杖になるほど硬く丈夫なことに由来。

地方名 (Local Names) — スカンポ / スイバ / ゴンパチ

秋の野を彩る白い群生

(The White Flowers)

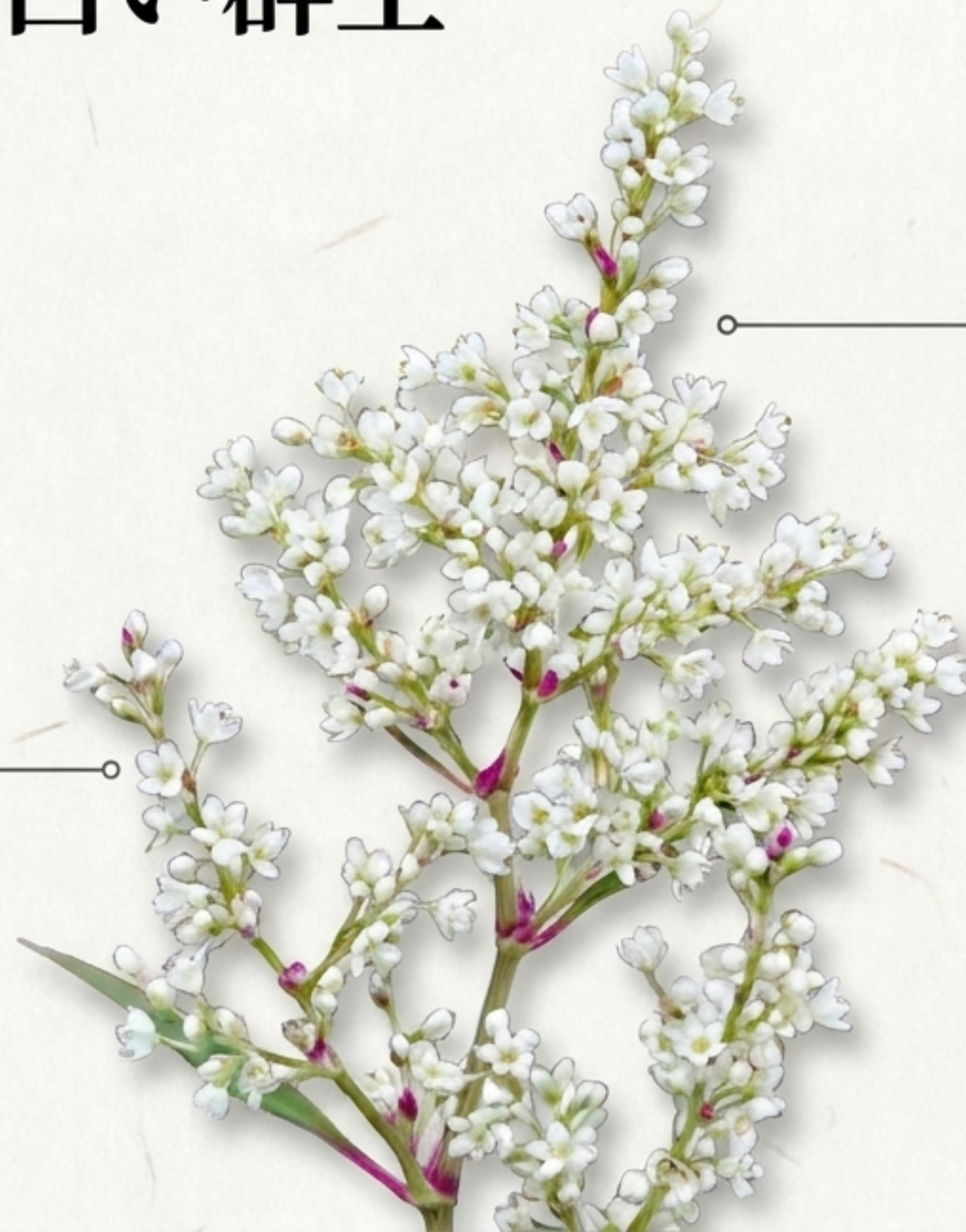
花期：7月～10月

【円錐花序】

小さな花が円錐状に密集。
白く目立つため遠目から
もよくわかる。

【花弁の不在】

実は「花びら」を持たない。
花びらに見えるのはラッパ状
に5裂した「萼（がく）」。



雌雄異株の構造比較 (Dioecious Characteristics)

イタドリは雄花と雌花を別々の株に咲かせる。秋に種子を残すのは雌株のみ。



【雄花】

雄しべ (Stamen) が8個。



【雌花】

雌しべ (Pistil) に3個の花柱 (Styles) が存在。この萼が後に発達し、種を包み込む。

花から実への変化

(The Black Seeds & Wings)

結実期: 10月～11月



1. 雌花が開花を終える。



2. 萼（外花被片）が発達し、種を包み込むように成長。



3. 3枚の薄い羽根のような外皮が完成。内部には三角状で黒褐色～黒色の種子（実）が形成される。実も白いため、遠目には花が咲き続けているように見える。

驚異的な生存戦略 (Mechanism of Survival)

【風による散布 (Wind Dispersal)】
発達した3枚の萼が「羽根」の役割を果たし、
秋の風に乗って広範囲に種を散布する。



岩場：鹿などの動物による食害を逃れ、登れないような岩場で生き残る。

【過酷な環境への適応 (Resilience)】



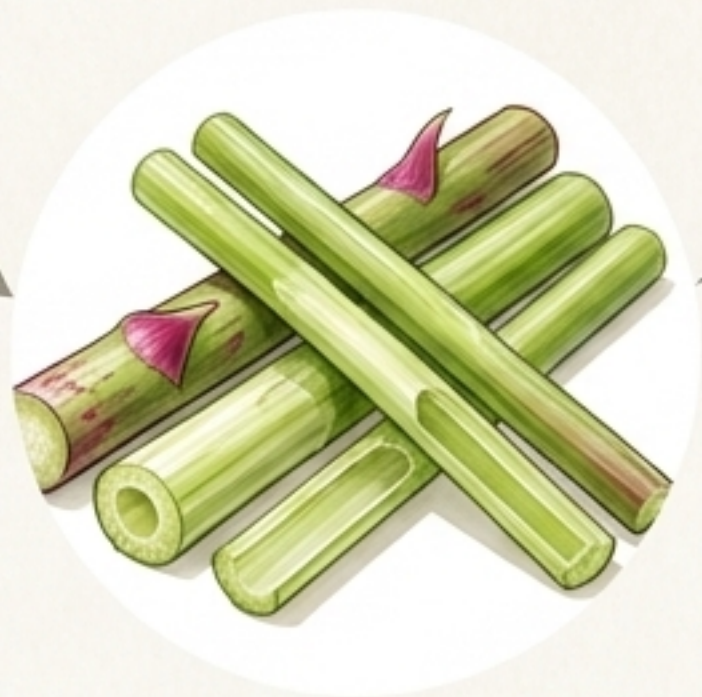
道路沿い：コンクリートの割れ目など、わずかな隙間と土壌でも発芽し、群生を形成。

春の恵み：山菜としての利用



【収穫 (Harvest)】

春、土壌が肥えた場所で育つ太い新芽や茎を狙う。



【生食 (Raw)】

皮を剥いてそのまま食べる。酸味があり、ぽりぽりとした食感（昔ながらのおやつ）。



【調理 (Cook)】

さっと茹でて皮を剥き、炒め物や煮物に。※煮すぎるととろけるため注意。



【保存 (Preserve)】

皮を剥いたものを塩漬けや冷凍にして長期保存。

民間薬としての歴史 (Medicinal Heritage)

現代の薬がなかった時代の貴重な癒やし

春に採れる若芽や葉は、
古くから傷薬として重
宝されてきた。



若芽を揉んで擦り傷や
切り傷に塗布すること
で、止血と痛みを和らげ
る効果があるとされ、人
々の生活に密着した植
物であった。

二面性：世界の侵略的外来種ワースト100

The Global Paradox



Threat Gauge

【繁殖のメカニズム (The Threat)】

風で無数に飛散する
「種子」と、冬を越して
コンクリートすらを突
き破る強靱な「地下茎」
の組み合わせ。

【世界の脅威 (Global)】

驚異的な繁殖力によ
り、海外では在来の
生態系を破壊する「侵
略的外来種」として
指定されている。

【日本の恵み (Japan)】

山菜や民間薬として親
しまれる身近な植物。

花言葉と誕生花

(Flower Language & Culture)

誕生花：10月5日

「回復」(Recovery)

若芽が傷の痛みをとり、民間薬として
人々を癒やしてきた歴史に由来。

「見かけによらない」
(More than meets the eye)

繊細で美しい白い花を咲かせながらも、杖に
なるほど硬い茎と、世界を驚愕させるほどの
の逞しい生命力を秘めていることから。



イタドリという植物の真髄 (The Essence of Itadori)



1. 植物としての美 (Botanical Beauty)

花びらを持たず、萼が変形した美しい白い花と、風に乗る精巧な3枚羽の種子。



2. 文化的な恵み (Cultural Bounty)

山菜としての独特な酸味と食感、そして「痛みを取る」民間薬として日本人の生活を支えた歴史。



3. 秘められた力 (Hidden Strength)

「見かけによらない」花言葉の通り、岩場やアスファルトでも生き抜く、世界屈指の強靱な生命力。